



# 大野市教育委員会たより

令和元年10月24日発行 第30号

発行 大野市教育委員会教育総務課  
〒912-0086 大野市天神町 1-1  
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110  
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月17日(木)午後7時～8時45分	次第	・1部 子育て講演(講師：久保教育長)
場所：阪谷保育園		・2部 意見交換
対象者：保護者(9人)・保育士(6人)		

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- 再編で友だちが増えることはいいことであるが、地区から学校がなくなることで、地区との関連性が薄れるのがどうか。阪谷地区はどんどん人が減っている。
  - ⇒■これまでも学校再編はあったが、その時は各地区に学校があり、現在もある。これから、何らかの再編をしていこうとすれば、地区から学校がなくなるということが起こり、これまでの再編と質が違うため、非常に難しい。
  - ⇒○地区体協主催の運動会などには学校の子どもが参加してもらっているが、尻すぼみになり、他の地区行事も実施が困難になるかもしれない。地区の交流がどんどん減っていくのかと思っている。
  - ⇒■地区も大事であるが、子どもの数は減り続けており、教育に支障が出てきている。教育委員会としては、何らかの再編は必要だと考えている。
  - ⇒○大きい学校になれば、友だちが多くでき、部活動も選べ、団体競技も出来て、自分のやりたいことが広がる。そういうことは子どもにとって大切なことだと思う。
  - ⇒■地区から学校がなくなると、子どもはいなくなる訳ではないが、子どもと地区とのふれあいは減ると感じる。その代わりに公民館が軸となって、子どもと地区と一緒に運動会やレクリエーションなどを続けていけるように、これから考えていく必要がある。学校に代わる拠点をつくり、地区の活気が維持できるよう、行政は考えていかなければならないし、地区の方々も一緒に組織づくりについて考えていただきたい。
- 再編は賛成である。学校の人数が少ないとPTAなどの役員を2つも3つも掛け持ちしなないといけないので大変である。だが、再編で学校が少なくなりすぎるのは嫌である。富田小と阪谷小で1つなど、小学校は4校か5校ぐらいだと思う。学校数は多すぎても少なすぎても駄目だと思う。その中間がいい。それであれば、再編は来年でも再来年でも行うことは良い。阪谷小が富田小と再編するのではあれば明日からでもOKである。
  - ⇒○県外出身だが、小学校は1,800人のマンモス校で修学旅行はバス15台で行っていた。大野は子どもが少ないから可哀想であると感じている。再編はしないといけないと思う。
- 再編計画通りに進んだ場合、小学校が再編する令和8年度では、子どもが小学校6年生になっている。現在子どもが少ない学校にいて、いざ再編で大人数の学校に行くとなった場合、とても不安がある。子どもが集団の中に入っていけるのか心配である。学校へは楽しく行って欲しい。
  - ⇒○勉強よりも人間関係がうまくいかが心配である。学校が小規模であれば、先生に手厚く見てもらえるという良さもあるが、クラスの人数が極端に少ないと勉強で立ち位置が決まってしまう、それが6年間ずっと同じになり、劣等感を抱いてしまう。褒めても褒めても立ち位置は変わらないため自信がつかない。人数が多ければ、友だちから教えてもらうことも多いと思う。小学校の再編は令和8年度ではなく、もっと早くても良い。週末は、遊ぶ同世代の友だちが近所にいない。
  - ⇒■1クラスの人数が極端に少ないと、勉強などでの立ち位置はなかなか逆転できないことがある。20人程度の人数のクラスであれば、小学校6年間で友だち関係が変わったり、1人1人の自信も変わる。小学校の6年間は中学や高校と比べて、子どもの成長は著しい。
  - ⇒■再編する場合は、1年から2年の準備期間を設けてスムーズに再編できるようにしていく。子どもや保護者同士の事前の交流を行う。その他、体操服やズックなどの準備期間も設ける。
- 再編すると学校は市街地の方になると思う。日中、阪谷から友だちの所へ遊びに行こうとしても仕事をしているので送迎が出来ない。結局、遊ぶ友だちがいない。
  - ⇒■子どもたちは、学校の休み時間などで友達とたくさん遊んでいる。学期中は、学校で遊びや勉強がたくさん出来るが、夏休みなどの長期休業中に課題がある。再編していない現在でも課題となっている。子どもだけでは、自転車で遠くへ行けない。地域コミュニティをどのように作るか、小学生だけでなく中学生も一緒に

なってコミュニティをつくるなどを考えていかなければならない。

⇒◎そのコミュニティとは、小中一貫となった建物でということか。

⇒■和泉小中学校は建物は一緒であるが、一貫校と違う。本来の小中一貫校は教育課程などにおいて、例えば9年間を初等部、中等部、高等部の3つに分けたりすることが出来る。教育課程を3つに分けたとしても、一緒に遊んだり、給食を一緒に食べたりすることは出来る。また、先生同士が交流を行い、中学校の先生が小学校で教えたりもしている。

◎なぜ、学校へ行かないといけないのか。子どもによく聞かれ、「義務教育だから行かないといけないんや」と言っ  
て無理に行かせていた。学校の先生はこういう時、どのように答えているか。

⇒■「なぜ、勉強しないといけないの」という問いも、子どもからよくある。いろいろなことを知り、いろいろな体験をしながら大人になっていくことが大事であると思っている。AIやインターネットが発達しても学校はなくならないと思っている。いろいろな学習教材があるので自宅のパソコンで勉強をやりようと思えば出来るが、そこになぜ学校があるのか。人間は1人では生きていけない。社会は共生社会であり、みんなと力を合わせ、助けたり、助けてもらったりすることで人間は生きていける。そこには喜びや悲しみ、嬉しさがある。その縮小された社会が学校である。そのような内容を子どもに伝えている。

⇒■村上春樹氏の本には、学校で三角関数やベクトル、歴史、漢文、古文を習うが社会に出てほとんど使うことはないが、社会に出て、人の前で話をしたり、車の営業をしたり、コミュニケーションを取ったり、社会を生きていく上で物事を理屈立てて考える訓練を学校でしていると書かれていた。

◎再編は基本的に反対である。阪谷小と富田小が一緒になるなら良い。急に大きい学校に行くことも心配であるが、一番は先生の質である。小学校や中学校で高い学力をつけて欲しいとは思わない。再編するのであれば、先生1人1人の質や心を育てて欲しい。教育長の子育て講演を、学校の先生にしてもらいたい。先生がしっかりしていたら再編はうまくいくと思う。

⇒■子どもは教職員が好きだと、その教科を好きになる場合がある。教職員であれ、保育士であれ、医者であれ、それぞれの仕事にプロ意識をもってやっていかないといけないと思う。技術も必要だが、人間性が大事である。

⇒◎子どもに大きい声を出してやらせるのは、誰でも出来る。

⇒■校長会や教頭会では、教育に対する教育長の想いや校長・教頭のそれぞれの想いを出し合い、一緒に学校をつくっていこうと考えている。子どもを本当に大事に思う教職員づくりにも取り組んでいるところである。教職員にはプロ意識を持ってもらうとともに、子どもとともにずっと学び続ける教職員であって欲しいと考えている。

◎県外出身であるが、自分が小学校6年生の時、学校が再編されたが、それでも全校生徒は約50人で、高校も90人ぐらいであった。少人数の学校を不自由に感じてはいない。先生に手厚く見てもらえたという実感がある。小さい学校で出来ることはある。大きい学校のメリットを知らないので、再編はやってみないと分からない。中学校1校、小学校2校になった場合、今の高校生や大学生が大野へ帰ってこようと決断するか。帰ってきたいと思う大野にして欲しい。

◎旧荒島保育園が富田幼稚園へ統合になった時、保育士も一緒に富田幼稚園に異動となり、同じメンバーであったがそれでもバタバタした。学校が再編された時、国の基準による教職員の配置だけでは恐らくバタバタと思うので、教職員の手厚い加配を考えて欲しい。多忙すぎると子どもを見たくても見れない状況となり、心に余裕がなくなる。教職員も子どもも健康で居て欲しい。あと、再編する学校の場所は、災害のない場所で考えて欲しい。

⇒■教職員の加配や配置についてはしっかり考えていきたい。再編については丁寧に考えていきたい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

